

中国東北部満州里ースイブンカ GGT-transect の年代試料

姫野 修 *・渡辺公一郎 *・大平寛人 **

中国東北部はアジア大陸の東縁に位置し、種々の海洋プレートの沈み込みに関連した地質現象を記録している典型的な大陸縁である。当地域では満州里ースイブンカ測線に沿ったマントル構造を明らかにするため、GGT(Global Geoscience Transect)プロジェクトが進行中であり、種々の地球物理学データが得られている。これらの研究にもかかわらず岩体の上昇史等の地殻の発達史については、まったく明らかにされていない。

本研究の目的はジルコン、アパタイトのフィッション・トラック(FT)年代測定、及びトラッ

ク長の測定により、典型的な大陸縁辺部における地殻の発達史として、中国東北部松遼盆地の形成史、及び盆地周辺に産する地質岩体の上昇史を解明することである。

本研究の調査地域(Fig.1)には中央に松遼盆地、またその周りを取り囲むように西、北、東においてそれぞれ大興安嶺山脈、小興安嶺山脈、長白山脈が分布している。現地調査の結果、松遼盆地の大慶油田におけるボーリングコア試料、および盆地を取り囲むそれぞれの山脈に分布する花崗岩試料を採取した。これら試料のFT熱年代学的手法による解析を進める。

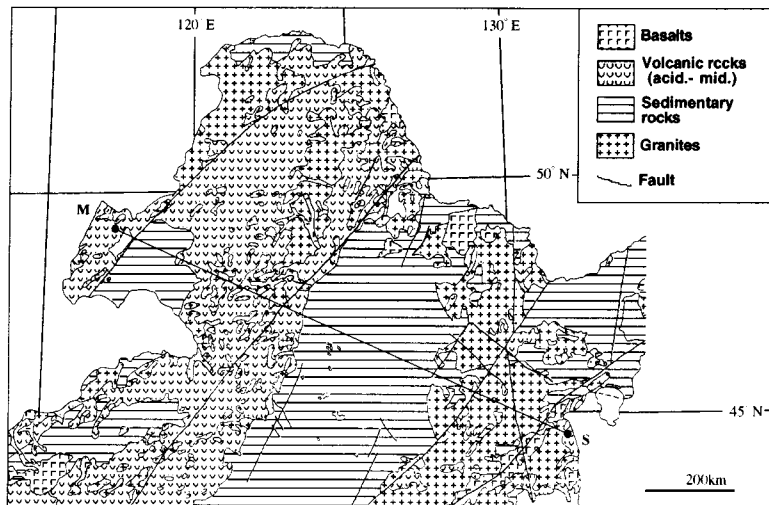


Fig. 1 Map showing geology of the Northeast China. M(Manzhouri)-S(Suihenhe) profile of the GGT project is also attached in the figure.

*九州大学工学部資源工学科, **島根大学総合理工学部